

2002年度

講義計画

桃山学院大学

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (朝鮮時代の社会と経済)	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	徳成 外志子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、李氏朝鮮王朝時代の身分制度を、主に職役、職業との関係を通して考察する。朝鮮の身分制は対国家関係において決定される職役と相互規定的な関係にあったことを特徴とする。身分によって職役が決定され、また職役によって身分が確定された。この関係は、上位身分であっても下位の職役を担当するようになれば長期的には身分が下落するし、逆に下位身分が上位身分の職役を取得すれば身分が上昇するという動的な関係を内包していた。日本の江戸時代と比べ、朝鮮後期社会は、身分は遙かに流動的で、身分上昇変動が大きかった。</p> <p>身分制度は近代に入って無くなり、従って身分としての両班やその特権はなくなったが、現代の韓国では国民の殆どが自分の家系は両班であると称しており、それを証する族譜という一族（父系血縁集団）の系譜を有している。両班意識や彼らの儒教的伝統は残っており、同族同士の結婚は法的にも禁止される（同姓不婚）など、両班の規範だったものが社会全体の規範となり、民族固有のアイデンティティと考えられるまでに至っている。なぜそうなったか、両班と他の諸身分（中人、郷吏、常民、身良役賤、奴婢）との関係はどうであったか、などを歴史的に考え、朝鮮社会の特質の一端を明らかにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朝鮮の地理、朝鮮史の時代区分 2. 李氏朝鮮社会の諸特質—両班儒教社会の形成 3. 国家財政と農民の負担 田税、身役、貢納・徭役 4. 身分制と職役 <ul style="list-style-type: none"> ・身分—両班、中人、良人、身良役賤、奴婢 ・職役—国家に対する役負担—官職、職役、軍役、奴婢役 ・朝鮮後期の身分変動—両班以外の両班志向、身分上昇 ・戸籍と族譜 ・伝統と近代 5. 職業—士農工商、及び農商工業 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末レポート、及び平常の出席と課題への取り組みを総合的に評価する。毎回出席して授業を聞いていないと、レポートがピンポイントになる恐れがある。今までの経験から、きちんと出席している学生のレポートに、やはり良いものが多い。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮嶋博史『両班（ヤンバン）』中公新書、1995 ・姜萬吉著、小川晴久訳『韓国近代史』高麗書林、1986 ・李佑成著、鶴岡裕他訳『韓国の歴史像』平凡社、1987 ・岸本美緒、宮嶋博史『世界の歴史12 明清と李朝の時代』中央公論社、1998 ・四方博「李朝人口に関する身分階級的観察」『朝鮮経済の研究』京城帝國大学法文学会、1938『朝鮮社会経済史研究（中）』国書刊行会、1976に再収 ・江守五夫、崔龍其編『韓国両班同族制の研究』第一書房、1982。 ・朝鮮史研究会編『新版朝鮮の歴史』三省堂、1995 ・『朝鮮を知る事典（新訂増補版）』平凡社、2000 <p>※取りあえず単行本のみ挙げた。その他関係論文等、授業で適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書] 特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会 I (世界遺産と日本の文化財)	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今、ユネスコ世界遺産が、一種のブームのようにもはやされている。この世界遺産は人類共有の遺産として「顕著な普遍的価値」が共通に存在している、という前提で各国の遺産の登録が行われているのだが、本当にそうなのだろうか。</p> <p>世界中には数多くの国民国家が存在する。国民国家という概念と文化財保護制度とは、実は密接に関係している。博物館制度も国民国家の歴史と深く関わっている。</p> <p>この点を主眼に据え、日本の文化財と世界遺産の考え方を比較しながら考えてみたい。また、その中で適宜、日本や他の諸外国の文化財保護の歴史についても論じてみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界遺産とはなにか 2. 世界遺産の実例 3. 日本の文化財の特徴 4. 文化財保護の歴史 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点とテストの結果を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（海域アジアの歴史を読む）		秋学期	2単位	深見純生
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は「海域アジア社会」というものを考えながら歴史資料も読もうとする、ちょっと欲張った試みである。具体的には海のシルクロードに関わる歴史資料を読みながら、その様々な背景を考える。「陸域」中心史観によるシルクロード史でなく、「海域社会」という観点からアジアの地域間交易の歴史を見直す試みである。「陸域」中心の常識的な観念から自由になることによって、重要な事柄がいくつか見えてくるはずである。</p> <p>海のシルクロードの歴史を東南アジアを中心に見ていくことになる。海域社会の典型的な姿は東南アジアに見ることができる。地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が国際交易つまり海のシルクロードと結びついたからである。史料は東南アジアを中心とする海のシルクロードに関わるもので、できるだけ日本語訳されたものを配付し、解説を加える。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海域アジア世界と「島の熱帯」 海域アジア世界／東南アジア＝「島の熱帯」／モンスーン／海團 付 海域アジア世界のなかの日本 2. 海のシルクロード成立以前 大秦（ローマ）の幻人 3. 海のシルクロードの成立 法蘭の航海 4. マラッカ海峡の交易帝国 シュリーヴィジャヤ＝室利仏逝の時代 5. 広州の繁栄、アラブ・ペルシア商船の活躍 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃図R292.3〕</p> <p>家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.9〕</p> <p>長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃図A209〕</p> <p>藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃図A209〕</p> <p>その他教室で時々指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅱ（古代ジャワの歴史と社会）		春学期	2単位	深見純生
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本とだいたい同じ約二千年の歴史のある東南アジアのなかでもジャワではとくに高度な古代文化が発達した。世界最大の仏教遺跡として有名なボロブドゥル遺跡や東南アジアでもっとも古い書物である古代ジャワ語の『ラマヤナ』はその象徴である。この講義ではこうしたジャワの古代文化を紹介しながら、その歴史と社会について考えていく。</p> <p>ジャワ史の背景として生態学的な特徴はたいへん重要である。そのうえに展開した古代の歴史では統一国家の形成、政治と文化の中枢の移動、アジア交易ネットワークのなかのジャワの中心性、王権論の展開、＜唯一神＞創造の試みのかずかずなどが重要なテーマとして浮かび上がってくる。余裕があれば権力の正統性と知識人の役割についても取り上げたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 火山島の奇跡 — 居住最適地としてのジャワ 2. 王権の発生 3. 統一権力の形成 4. 王権思想 — ボロブドゥルの時代 5. 中部ジャワ時代の終焉 6. 「太平の閩婆」 — 交易ネットワークの中心 7. 征服王の時代 — 島嶼世界の盟主 8. 支配イデオロギー＝＜普遍原理＞を求めて 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>時々の小レポートと期末試験を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997〔桃図R292.3〕</p> <p>池端雪浦編『変わる東南アジア史像』山川出版社 1994〔桃図223〕</p> <p>デュマルセ、ジャック著 藤木良明訳『ボロブドゥール』学芸出版社 1996〔桃図522.3〕</p> <p>その他教室で時々指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ スウェーデンの社会と経済	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	伊藤正純
【講義概要・学習目標】 この講義の狙いは、平等で民主的な福祉国家・スウェーデンの特徴を批判的に検討するだけでなく、その実情を紹介し、鏡を現世に照らし、社会的福祉のあり方を考えること、環境政策、労働政策、女性政策など、具体的な事例を紹介するつもりである。	【講義計画】 1. スウェーデン福祉国家生成の諸画期（普遍的福祉） 2. 労使関係（経済政策の一環、対立と妥協、労働者の経営参加） 3. 政治制度（公正な選挙制度、分権型社会、中央政府と地方政府） 4. 環境政策（温室ガス対策、環境税、ゴミ処理） 5. 女性政策（女性の社会進出、高い就労立、男女平等、新しい家族） 6. グローバル化（社会民主主義vs.新自由主義）			
【成績評価の方法】 平常点（授業中ときどき書いてもらう感想文：約20点）と学期末の筆記試験（約80点）による。	【参考文献】 1. 篠田武司編『スウェーデンの労働と産業』学文社 2. 平田清明、伊藤正純他『現代市民社会と企業国家』御茶の水書房 3. 岡沢恵美・宮本太郎編著『スウェーデン・ハンドブック』早稲田大学出版部 4. 伊藤和良『スウェーデンの分権社会』新評論 5. 藤岡純一『スウェーデンの財政』有斐閣			
【教科書】 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ 選挙制度の比較研究		春学期	2単位	山崎充彦
【講義概要・学習目標】 現代民主主義にとって、議会制はいわば不可欠な制度である。最近脚光を浴びている住民投票は、あくまで議会を補完する制度と位置づけられるに過ぎない。その議会を構成する議員を選ぶのが選挙であり、選挙こそは、国民が政治に参与することを制度的に保障する殆ど唯一の機会である。 だが、選挙制度は複雑多岐であり、制度によって選挙の結果が大きく異なるものになるもの決して不思議なことではない。（2000年11月に行われたアメリカ大統領選挙を想起されたい。） この授業では、現代政治にとって重要な政治制度である選挙制度について、歴史的・比較政治的視点を踏まえつつ講義する。	【講義計画】 1. はじめに ①様々な選挙制度の紹介 ②選挙制度の矛盾など 2. 現在の日本の選挙制度 ①衆議院・小選挙区比例代表並立制 ②参議院・非拘束名簿式比例代表制 3. 過去の日本の選挙制度 ①衆議院・中選挙区制 ②参議院・全国区 ③参議院・拘束名簿式比例代表制 4. 外国の選挙制度 ・英米の単純小選挙区制 ・ドイツの小選挙区比例代表併用制			
【成績評価の方法】 成績評価は、定期試験で行う。 授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。場合によっては退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。	【参考文献】 参考文献は数多くあり、随時紹介するが、基本的なものとしてさしあたり、以下の文献を挙げておく。 ・佐伯 胖、『きめ方』の論理』、東京大学出版会 ・西平重喜、『比例代表制』、中公新書 すこし古い文献だが、選挙制度の基本やその矛盾点、また各国の選挙制度が簡潔且つ豊富な図表入りで紹介されている。			
【教科書】 教科書は使用しない。 参考文献については、授業中に随時紹介して行く				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史と社会Ⅲ 議会制の機能と現状		秋学期	2 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 現代民主主義にとって、議会制はいわば不可欠な制度である。最近脚光を浴びている住民投票は、あくまで議会を補充する制度と位置づけられるに過ぎない。しかしながら、議会制は常に、批判にさらされてきた。日く、議会は非効率である、議会は民主制の皮をかぶりながらも国民の声を反映していない、と。我が国の国会の現状も到底、国民にとって満足すべき状況ではない。審議の形式化、閣取引の横行など、国会の現状が「国権の最高機関」の名にふさわしいとは言えない一面があることも事実であろう。この講義では、ヨーロッパにおける議会制の歴史を振り返るところから始め、現実の政治状況を踏まえつつ、議会制度の機能と現状などについて考える。	[講義計画] 1、議会制の歴史、意義、権能 2、20世紀における議会制批判 ～カール・シュミットの議会制批判など 3、我が国における議会制の歴史と現状 ①大日本帝国憲法下の帝国議会 ②日本国憲法下の国会 ～55年体制の成立と崩壊 4、諸外国の議会制との比較			
[成績評価の方法] 成績評価は、定期試験で行う。 授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。場合によっては退室を命じることを実践しており、その点、了解の上、登録・受講されたい。	[参考文献]			
[教科書] 教科書は使用しない。 参考文献については、授業中に随時紹介して行く				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ 先住民族とキリスト教Ⅰ		春学期	2 単位	小 柳 伸 顕
[講義概要・学習目標] もともと被抑圧者の宗教だったキリスト教が、制度化され権力と結びつく時、どんな道とどろどろしょうか。中世のスペインのキリスト教を例にとりあげます。コロンブスに代表される大航海時代のスペイン人キリスト教徒が中南米のインディオ（先住民族）に対して行ったことは、イエスの福音とは全く別のものとした。スペイン人キリスト教徒が行ったことを批判したスペイン司祭ラスカサスの思想に学ぶと共に、宗教（キリスト教）のはたした役割について検討したいと思います。	[講義計画] 1. 1492年のスペインーキリスト教・ユダヤ教・イスラム教 2. コロンブスと「新」大陸ー黄金か神か 3. 植民者ラスカサス 4. ラスカサスの回心 5. インディオは人間かーセムールバダとラスカサス 6. インディオとキリスト教 各項目について1～3回とりあげます。			
[成績評価の方法] 期末テスト(時々実施する小レポートも参照する)	[参考文献] ・ラスカサス『インディアン史』1～5 岩波書店 ・小岸 昭 『十字架とダビデの星』 NHKブックス ・石原保徳 『世界史への道』前後編 大善ライブラリー			
[教科書] 柴田秀藤 「ラスカサス」清水書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教 I 先住民族とキリスト教 II		秋学期	2 単位	小 柳 伸 顕
[講義概要・学習目標] 日本の先住民族アイヌが、日本政府から「旧土人」と呼ばれていた時代に、イギリス人宣教師ジョン・バチラーが来日します。ジョン・バチラーが見たアイヌ民族の実態はどんなものだったのでしょうか。アイヌ民族の歴史を検討するとともに文化、世界観などにも注目します。 松前藩に代表される徳川幕府のアイヌ民族政策の中で、アイヌ民族の実態を明らかにした松浦武四郎に目玉向けると共に、外国人としてアイヌ民族にかかわったジョン・バチラーの歩みとその思想に学びます。	[講義計画] 1. アイヌ民族の植民 コシヤミン、シウシヤイン、クナシ・メナシ 2. 北海道旧土人保護法からアイヌ文化振興法、北海道旧土人保護法、アイヌ新法(案)、アイヌ文化振興法 3. アイヌ民族の世界(宗教)観、自然、イオマンテ、カムイの世界、 4. 松浦武四郎からジョン・バチラーへ 松浦武四郎、ジョン・バチラー、バチラー一家、 5. アイヌ民族とキリスト教 肖像権裁判、二風谷裁判など。			
[成績評価の方法] 期末テスト(時々教養実施ある小レポートも参照)。	[参考文献] ・谷川健一編『近代民族の記録 アイヌ』新人物往来社。 ・萱野茂『アイヌの伝説』朝日文庫。 ・本多勝一『アイヌ民族』朝日文庫、2001年。			
[教科書] 小笠原信之「アイヌ近現代史読本」緑風出版 2001年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教 I (天地創造物語と最後の晩餐)		春学期	2 単位	谷 本 泰 三
[講義概要・学習目標] 聖書の天地創造の物語とイエスの最後の晩餐の場面は多くの画家達が試みた画材である。西洋の画家達の作品を鑑賞しながら講義する。神の存在や、神が人に与える恩寵など、それは決して人の目に映るものではない。鼓膜が振動して聞こえるものでもない。ではそれをどのようにして表現すればよいのか。表現できたとしてもそれは目に見えたり耳で聞こえたりするものとなってしまふ。文字化されて読みとれてしまったりする。神など、本来的には人の手の届かない存在であるはずだ。講義では、人の持つ限界を強く意識しながら、なお、限界を突破してその彼方にあるもの、無限なるものを表現しようとした芸術家達が、聖書をどのようにに絵画化したのか検討してみよう。画家達の想像力が伝える事柄を辿ってみることとなる。	[講義計画] 1 序論 2-6 天地創造 7-11 最後の晩餐 12 むすび			
[成績評価の方法] クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。 期末試験またはレポート。	[参考文献]			
[教科書] 高久眞一『キリスト教名画の楽しみ方―天地創造』日本キリスト教団出版局 高久眞一『キリスト教名画の楽しみ方―最後の晩餐』日本キリスト教団出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅰ（ 天地創造とイエス降誕物語 ）		秋学期	2 単位	谷 本 泰 三
〔講義概要・学習目標〕 聖書の天地創造の物語とイエスの降誕物語は多くの画家達が試みた画材である。 西洋の画家達の作品を鑑賞しながら講義する。神の存在や、神が人に与える恩寵 など、それは決して人の目に映るものではない。鼓膜が振動して聞こえるもので もない。ではそれをどのようにして表現すればよいのか。表現できたとしてもそ れは目に見えたり耳で聞こえたりするものとなってしまふ。文字化されて読みと れてしまったりする。神など、本来的には人の手の届かない存在であるはずだ。 講義では、人の持つ限界を強く意識しながら、なお、限界を突破してその彼方に あるもの、無限なるものを表現しようとした芸術家達が、聖書をどのように絵画 化したのか検討してみよう。画家達の想像力が伝える事柄を辿ってみることとな る。	〔講義計画〕 1 序論 2-6 天地創造 7-11 降誕 12 むすび			
〔成績評価の方法〕 クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。 期末試験またはレポート。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 高久眞一『キリスト教名画の楽しみ方―天地創造』日本キリスト教団出版局 高久眞一『キリスト教名画の楽しみ方―降誕』日本キリスト教団出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅱ 心を支え合う共同体を創る		春学期	2 単位	伊 藤 高 章
〔講義概要・学習目標〕 人と人との関係には、様々な力が働いている。私たちはそれらについて意識 的・自覚的である場合もあるが、無意識的・無自覚な場合もある。このクラス では、行動科学や社会心理などの知見の助けを借りながら、人間関係に働く諸 力についての気づきを深めることを目的とする。 それらをより良く理解するには、体験学習が効果的である。知識によってそ れらを知るだけではなく、受講者自らが実際に人間関係を築く努力をし、共同 体を創るプロセスを味わう設定をする。家族関係の検討、生育歴の振り返り、 人間関係ゲーム、ロールプレイなどを行う。	〔講義計画〕			
〔成績評価の方法〕 このクラスでは、様々な対人関係を「試みる」ことを、主な学習の手段とす る。各自の試行錯誤の内容を評価対象とはしない。作業に取り組み、共同体創 りに参加すること（たんなる出席は参加ではない）を評価する。全プロセスに 参加した受講者にはA、正当な理由なく1回でも欠席した者にはDをもって、 成績評価とする。	〔参考文献〕			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (仏教經典を読む)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	武 田 耕 道
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国や日本の仏教徒が日常誦読したり、写経している「お経」はほとんどが大乗經典である。『般若經』をはじめとして、『法華經』『阿彌陀經』『華嚴經』『大日經』など、多種多様である。</p> <p>大乗經典は阿含經と同じく、「經」であることを主張するために、形式的には「如是我聞」ではじまり、聴衆が「歡喜信受」することで終わる。「仏説」である。しかし実際は釈尊を追慕し、贊嘆する後世の仏教者たちが信仰告白と瞑想体験を土台として創作したと考えられている。「經」の範囲は中国でさらに拡大されて、經・律・論の三藏の全体を指すようになる。「大藏經」とも「一切經」とも呼ばれる。これらの經典は歴史上の釈尊の悟りと説法が出发点であり、悟りは釈迦牟尼世尊の修行の結果として実現されたものである。実践過程としての修行の階梯、帰依信仰としての如来の贊嘆、つまり「行」と「信」の在り方を經典から学び取りたいと思っている。</p> <p>講義では、如来と信者行者の相互関係を視点を据えて仏教思想の基本構造を追求したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、三宝 2、三藏 3、三乘 4、三尊 5、三身 6、三業 7、三心 8、三願 9、三位性 10、一体性 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験と出席状況</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定せず</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (安藤昌益の思想)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>安藤昌益は江戸時代中期に出羽国秋田郡二井田村(今の秋田県大館市)に生まれた農民思想家で、日本で最初に封建制を批判した人物である。経歴の大部分が不明だったのでさまざまな昌益に関する虚像が打ち立てられた。講義者の30年に及ぶ調査活動に基き昌益の実像に迫る。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 封建制の否定と安藤昌益 (2) 文化大革命と昌益の利用 (3) 昌益掘り起こしの過程 (4) 地域と思想 (5) 昌益の社会変革論 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験(講義に全部出席して内容の理解に努めれば単位取得は容易であるが欠席が多かったり注意散漫であれば単位取得は著しく困難である。)</p>	<p>[参考文献]</p> <p>三宅正彦著『安藤昌益と地域文化の伝統』(雄山閣, 1996年)</p> <p>三宅正彦編『安藤昌益の思想史的研究』(岩田書院, 2001年)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>資料を配布する。ただし配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席していた人に対する追加配布や、持参するのを忘れた人への再配布は行わない。毎時、資料を持参しなければ、講義の理解は困難である。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ（植民地期朝鮮の宗教）	01	春学期	2単位	青野 正明
	02	秋学期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本による植民地支配の時期において、特に農村社会での朝鮮の民族文化と同化政策（「日本人」化の政策）の関係や、民族文化である終末思想の変容を学ぶ。</p> <p>次に、朝鮮総督府（日本の統治機関）が、民間信仰の巫俗（シャマニズム）や新王朝樹立（＝独立）を目指した民族宗教に対しておこなった政策を概説する。</p> <p>民族宗教団体の天道教と金剛大道が農村社会で築いた基盤と、それらに対する総督府の弾圧政策も解説する。</p> <p>難しいテーマであるが、留学や現地調査の体験談を交え、また具体的な資料も使いながら、できる限り平易に説明していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>[講義概要・学習目標]で説明した流れに沿って、教科書の該当箇所を読み、それに解説を加えながら講義を進めていく。このように、教科書を読み進めていくやり方を取り、授業で扱う範囲は序章から終章までとなる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>努力が報われるよう、期末試験により厳しく評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>青野正明『朝鮮農村の民族宗教』社会評論社、2001年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ イスラームの世界	01	春学期	2単位	今 澤 浩 二
	02	秋学期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>混迷を深めるパレスチナ問題や昨年の米国テロ事件をはじめとして、イスラームは、現代の国際情勢を見る上で欠くことのできない要素となっている。イスラームについて理解することは、今や緊急の課題である。イスラームは単に宗教にとどまらず、信者の日常生活すべてを規定する社会秩序でもある。本講では、イスラームを考える上で特に重要な項目を取り上げて解説し、イスラーム世界への理解を深めることを目的とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序 イスラームにまつわる誤解と偏見</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 預言者ムハンマド 2. 六信五行 3. コーラン 4. ハディース（預言者の言行録） 5. シャリーア（イスラーム法） 6. スンナ派とシーア派 7. イスラーム「原理主義」 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験、時々的小テスト。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>東長靖『イスラームのとらえ方』（世界史リブレット15、山川出版） 小杉泰『イスラームとは何か』（講談社現代新書）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅲ (インドネシアの多様な宗教)		秋学期	2単位	小 池 誠
[講義概要・学習目標] 東南アジアのインドネシアを取り上げ、インドネシア社会のなかで様々な宗教がどのような形で信仰されているか、明らかにする。インドネシアではイスラムが多数派を占めているが、そのほかにキリスト教、ヒンドゥー教、仏教、伝統宗教が信仰されている。インドネシアの社会・文化のなかで、人々がイスラムとキリスト教などの世界宗教をどのように信仰し、また宗教と儀礼が日常生活のなかでどんな意味を持っているか、講義のなかで明らかにしたい。講義では、できる限りビデオを教材として使って、多角的にインドネシアの宗教を理解してもらいたい。		[講義計画] 1 インドネシアとは 2 イスラム 3 キリスト教 4 ヒンドゥー教 5 仏教 6 伝統宗教 7 講義のまとめ		
[成績評価の方法] 講義中に提出する小レポートと学期末に実施する試験の成績を総合的に評価する。		[参考文献] 小池誠、『インドネシア——島々に織りこまれた歴史と文化』（三修社）		
[教科書] とくになし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ (古代インドの自由思想Ⅰ)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	杉 岡 信 行
[講義概要・学習目標] 古代インドの思想・宗教は、祭祀主義のバラモン教が主流であった。ところが、紀元前5、6世紀に北部インドを中心に祭祀主義に異を唱える自由思想家たちが多数輩出した。バラモン教徒たちは、世俗の中であって、世俗生活を肯定していた。一方、自由思想家たちは、超俗を尊び、出家主義を宗としていた。自由思想家の中でも仏教の開祖であるゴータマ・ブッダとジャイナ教の祖師マハーヴィーラは最も有名である。授業では自由思想家たちの思想と宗教活動について見ていく。 また、古代インドの宗教を考えるとともに、現代における宗教の意味と意義について考えていきたい。		[講義計画] 1) 古代インドとバラモン教 2) 6人の自由思想家(六師外道) 3) ジャイナ教の宇宙観 4) ジャイナ教の業思想 5) 輪廻からの解脱 6) ジャイナ教の実践道 7) 仏教とジャイナ教 8) 宗教と差別		
[成績評価の方法] 期末試験により評価する。		[参考文献] 『バラモン教 原始仏典』中公パックス 世界の名著 長尾雅人編 中央公論社		
[教科書] 『宗教と救済』 山口恵照他編著 ナカニシヤ出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ（心の本性—哲学的見地から）	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	木 下 昌 巳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人の心とは何か？それは我々が何よりもいちばん知りたいことの一つである。近年の心理ゲームの流行や「私探し」という現象も、その関心の現れとして見なすことができるだろう。哲学においても、人間の心の本性をどうとらえるかということは、古代より多くの哲学者の中心的な関心の一つであった。今世紀になり人間の心を対象とする学問として心理学が成立し、学問的研究対象としての人間の心を哲学から奪ってしまった感があるが、哲学者たちの心に対する正面からのアプローチは、現代の行動科学的な心理学のアプローチと比べて、なお魅力的であり続ける。この講義では、プラトン、デカルト、フロイトの三人の思想家を取り上げて、彼らの心に対する見方をを今日的なトピックを交えながら論じていくことにする。授業の内容は、それなりにハードなものであり、「心理ゲーム」的な内容を期待するのであれば、当てがはずれることになるだろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1, 序論 2, プラトン 3, デカルト 4, フロイト 5, 現代の哲学的アプローチ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末のテスト 80点 授業内のエッセイ 20点</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
思想と宗教Ⅳ 文化論の視点から	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	柳 父 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>歴史上の宗教を中心に、世界を動かしてきた思想、文化を考えていきたい。まず、仏教、キリスト教、イスラム教、そして儒教も宗教文化として考えたい。それから、日本は、一見仏教文化の国で、実際は無宗教というように考えられることが多いが、多神教的文化と捉えていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の中心は、次のようなテーマである</p> <p>日本人と宗教 （『菊と刀』、「秘」の構造：日本的宗教） 天皇制神道 仏教 キリスト教 キリシタン 儒教 イスラム教 宗教と文明 1：古代エジプト 2：古代ギリシャ 現代の課題：文明の衝突か、対話か</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>随時講義のあとで小テストをする。この小テストと、期末の試験とを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>私自身の文化、文明や、異文化交流についての著書があるが、講義の中でときどき紹介していきたい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくにない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術 I 現代の宇宙論	0 1 0 2	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	桑 原 雅 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>現代の宇宙論は20世紀科学が到達した頂点のひとつである。</p> <p>天文学、素粒子物理学、さらに観測装置やロケットなど技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の起源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。物質世界の統一的記述に一応成功しつつあるといえる。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく講述することは、担当者にとっても至難であるが、チャレンジしてみよう。</p> <p>この講義をおとして、現代科学の方法、科学と技術の分ち難い関係、純粋科学の進展と国家の科学技術政策とのかわりについて考えるきっかけを提供したい。宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることである。コスモロジーとしての人文的側面も無視できない。</p>	<p>1. はじめに：宇宙論小史</p> <p>2. 近代科学の宇宙像</p> <p>3. 観測と理論18-19C</p> <p>4. 銀河と宇宙の構造</p> <p>5. 膨張する宇宙</p> <p>6. 相対論的宇宙論</p> <p>7. ビッグバン・モデル</p> <p>8. 重元素生成と星の一生</p> <p>9. 素粒子の世界</p> <p>10. 標準理論を超えて</p> <p>11. 観測的宇宙論の新展開</p> <p>12. おわりに：宇宙と人間</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>期末試験による。</p> <p>授業中に課する小レポートを参考にする。</p>	講義中に指示する。			
[教科書]				
<p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術 I エネルギー問題の科学技術	0 1 0 2	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	後 藤 邦 夫
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>文明社会は莫大な量のエネルギーの消費の上に成り立っている。たとえば、経済活動と市民生活を支えるために日本が輸入する石油、天然ガス、石炭などの化石燃料は年間数億トンにのぼる。そのほかに、多くの問題を抱えた原子力発電所を多く稼働させている。エネルギーの安定供給はわれわれにとって死活問題である。同時に、化石燃料の燃焼による二酸化炭素や原子力利用にともなう放射性廃棄物などによる環境問題は深刻である。このエネルギー問題の科学技術的側面として、資源の探査と採掘、輸送と貯蔵、転換と精製、配分システム、効率的利用などがあり、いずれも今日の科学技術の重要課題である。しかも、その基底には「エネルギー原理」と「エントロピー原理」という、われわれの自然認識の根幹にかかわるテーマがある。これらを出来るだけ平易に解説し、エネルギー問題の重要性と原理的問題を認識してもらおうのがこの授業の目的である。</p>	<p>以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。</p> <p>(1) エネルギー問題理解のための基本事項。</p> <p>(2) 化石燃料資源の探査と採掘。</p> <p>(3) 化石燃料の精製、加工、転換。</p> <p>(4) エネルギーの動力利用。</p> <p>(5) 核エネルギーの利用の現状と展望。</p> <p>(6) エネルギー科学の基礎的原理。</p> <p>(7) エネルギー問題と環境問題。</p> <p>(8) エネルギー問題との社会科学的側面。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。</p>				
[教科書]	<p>おびただしい良書がある。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他にテーマごとに授業中に示す。</p>			
<p>使用しない。必要に応じプリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ (工学)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	岡 村 清 人
[講義概要・学習目標]	<p>現代は「科学・技術依存型」社会といわれている。特に日本では「工学依存型」社会である。</p> <p>講義では、科学と技術の誕生を明確にして、近代的な科学・技術への展開を明らかにする。さらに、「科学・技術」と工学との関連性を日本の工業材料の発展を通して説明する。</p>			
[成績評価の方法]	<p>レポートを主として、出席、授業中の態度などを含めて総合的に評価する。</p>			
[教科書]	<p>「科学・技術と社会」文・理を越える新しい科学・技術論</p> <p>村上 陽一郎 著 ICU選書 光村教育図書</p>			
[講義計画]	<p>「科学」と「技術」から近代的な意味での「科学・技術」への変遷を明らかにする。特に、日本の「科学・技術」の発展に工学がいかに深く関わってきたかについて、工業材料の発展を通して講義を行う。さらに「科学・技術」の将来について、「科学・技術」と「社会」との融合の必要性について言及する。</p>			
[参考文献]	<ul style="list-style-type: none"> ・大石 嘉一郎 (編) 『日本産業革命の研究 上・下』 (東京大学出版会) ・堂丸 昌男・山本 良一 (編) 久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』 (東京大学出版会) ・H. W. ルイス (著) 宮永 一郎 (訳) 『科学技術のリスク』 (昭和堂) ・成定 薫 (著) 『科学と社会のインターフェイス』 (平凡社・自然叢書24) ・村上 陽一郎 著 『文明のなかの科学』 (青土社) <p>・講義資料を適宜配布する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅱ (日本の自動車産業発達史)		秋学期	2 単 位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標]	<p>明治30年代の自動車産業の発展を、戦前戦後の技術革新、戦後の高度成長期、そして現代の環境意識の高まりを踏まえ、日本の自動車産業の歴史を振り返る。また、自動車産業の発展がもたらした社会変化や課題についても考察する。</p>			
[成績評価の方法]	<p>レポートの提出を課す。期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。</p>			
[教科書]	<p>並川 宏彦 著 『日本の自動車産業』 (光村教育図書)</p>			
[講義計画]	<p>1. 明治30年代の自動車産業の萌芽 2. 戦前戦後の技術革新と自動車産業の発展 3. 戦後の高度成長期と自動車産業の急成長 4. 現代の自動車産業と環境意識の高まり</p>			
[参考文献]	<p>並川 宏彦 著 『日本の自動車産業』 (光村教育図書)</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ（地球生物の来し方・行く末）	01	春学期	2単位	松永 俊男
	02	秋学期	2単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらためていうまでもなく、人間は生物進化の産物である。その人間が「地球にやさしく」などというのは、人間の思い上がりである。百億年の寿命をもつ地球から見れば、人類の活動など、ほんの一瞬のできごとにすぎない。環境破壊によって人間自体が絶滅しても、やがて地球には緑が回復し、新たに進化した動物が海にも陸にも満ちあふれることだろう。</p> <p>この講義では、ビッグ・バンに始まる宇宙の歴史の中で、地球に生命体が誕生し、人間という知性体が登場した経過を探求する。さらに、地球外生命体の可能性や、人類と地球の将来などについて考察したい。</p> <p>授業は、V I D E Oなどの映像資料を利用した楽しいものになりたいが、遅刻や私語には厳しく対応する。</p> <p>最初の授業時に、毎回の講義内容を示した講義予定表を配布する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球の誕生 2. 大量絶滅の謎 3. 生命の起源と宇宙人探査 4. 最初の地球生物 5. 酸素の役割 6. 陸生生物の出現 7. 脊椎動物の進化 8. サルからヒトへ 9. 現生人類への歩み 10. 生物としてのヒト 11. 遺伝子工学と生殖革命 12. 地球と人類の将来 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テストの結果のみで評価する予定である。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ（害虫とたたかう）		春学期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は有史以来さまざまな昆虫とたたかってきた。人間に直接害を与える昆虫や、病気を媒介する昆虫、そして農作物を害し横取りしようとする昆虫。とくに農業の歴史は、害虫との絶えまないたたかひの歴史でもあった。</p> <p>化学合成殺虫剤の発明は害虫とのたたかひにピリオドを打つかに見えた。ところが殺虫剤などの農業は、人の健康を害し、野山の生き物を殺し、環境を破壊し、その一方で害虫の数はいっこうに減ることがない。農業に頼り切ってきた過去50年の農業が、今転換期を迎えようとしている。</p> <p>この授業では、人間の害虫とのたたかひの歴史をたどり、開発されてきたさまざまな技術を概説する。それを通して、ただ単に害虫防除のことは知るといっただけでなく、日々何気なく口にしている野菜や果物がどれだけの苦勞をかけて作られていて、今農業がどういっう状況にあるかといっう『食』の問題について関心を持ってもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・害虫防除史 ・いろいろな害虫 ・稲作農家の永きたたかひ ・農薬のすべて ・害虫はなぜはびこる ・天敵の話 ・530億匹の闘い：ウリミバエの根絶 ・遺伝子組み換え作物 ・総合的害虫防除 ・有機農業 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと論述式の期末試験により判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (滅びゆく生物)		秋学期	2単位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から収奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして私たちは何をすればいいのだろうか。</p> <p>この講義では、生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していくが、同時にこの地球上に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかということを考える機会としてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <p>第1部：森林の価値と危機 森林の価値、失われる里山、失われる熱帯雨林</p> <p>第2部：水辺の価値と危機 ウエットランドの価値、危機、水田という自然</p> <p>第3部：生物を滅ぼすもの 生息地の破壊、化学物質汚染、乱獲、侵入生物滅びる理由</p> <p>第4部：生態系を再生する 絶滅危惧種のリストアップ、環境アセスメント ウエットランドの再生：アサザプロジェクト</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の短いレポートと論述式の期末試験により判定する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅰ)		春学期	2単位	井 田 和 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代文明を特徴づけている科学と技術とはいったいどのような科学・技術をさすのか。科学技術はどこへ行こうとしているのか。科学や技術が産業構造だけでなく、社会や政治さらには人間の生存そのものにも、かかわりあいを持つものになってきた。</p> <p>身近な地域の公害問題を解決し、環境保全の立場にたった科学技術の発展が急務である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水環境：水の特性と働き、水的环境、都市に水を安定供給する方法、河川水の水質汚濁 2. 大気環境：環境大気の種類と組成、環境大気の大気汚染物質、光化学スモッグ、ヒート・アイランド 3. 土環境：土壌の誕生と機能、都市土壌の特徴、土壌汚染、市街地の土壌汚染の防止 4. 環境資源としての森林の働き 5. 有機塩素系化合物（環境ホルモン）の毒 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に示す。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅲ (環境問題と科学技術Ⅱ)		秋学期	2単位	井 田 和 子
〔講義概要・学習目標〕 歴史の歩みの中で科学や技術はどのような役割を果たしてきたか、人間社会の未来に対してどのようにかかわりあっているのか。 科学技術が経済構造、社会や政治、人間そのものにまで、深いかわりを持つようになってきた。 生産者ではなく、消費者主導の、環境保全の立場に立った科学技術の発展が急がれる。	〔講義計画〕 1. オゾン層の破壊：破壊機構とフロンガス 2. 地球の温暖化：温暖化と化石燃料、温暖化の影響 3. 酸性雨と環境の酸性化：高度工業化と酸性化問題 4. 熱帯林減少：経済問題と気象への影響 5. 人為が原因の砂漠化 6. 海洋の有機塩素化合物汚染 7. 環境問題と科学技術			
〔成績評価の方法〕 テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	〔参考文献〕 必要に応じて授業中に示す。			
〔教科書〕 とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学と技術Ⅳ 「情報」を科学で扱う	01 02	春 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	後 藤 邦 夫
〔講義概要・学習目標〕 コンピュータの中で「情報」が処理され、通信回線や電波を通して「情報」が世界中を駆け回っている。そこでは科学や技術が中を利かせているが、一体「情報」(あるいは知識)を「科学的に扱う」とはどういうことであろうか。たとえば、文学等で言葉を扱うのとどう違うのだろうか。歴史的な話題を取り上げながら、われわれが行ってきたことを振り返ってみる。そのモデルは「科学」にとっては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」をどのように変えたかが問題である。これから否応なしに人工的な情報処理の世界に入ってゆく学生諸君に、一度考える機会が提供できれば幸いである。授業は、シャノンの情報理論の二つの定理を中心にできるだけ平易で具体的な問題を選んで行う。その中で基礎的な理論の輪郭を理解してもらえようようにしたい。	〔講義計画〕 以下のテーマをそれぞれ1、2回ずつ扱う。 (1) 言葉とコミュニケーションを扱うためのモデル。 (2) 文字情報の生成と伝達 (印刷と出版のシステム)。 (3) 電気通信における「符号化」の役割。 (4) 「ことば」と「波」(電波による情報の大量輸送)。 (5) 情報の理論的基礎 (シャノンの第1定理)。 (6) 情報の理論的基礎 (シャノンの第2定理)。 (7) コンピュータにおける情報の働き。			
〔成績評価の方法〕 期末のテストの結果が中心であるが、テーマを決めてレポートを課し、あわせて評価する。	〔参考文献〕 部分的な問題については、おびたしい良書がある。しかし、このテーマを一貫して扱った本は意外に少ない。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。			
〔教科書〕 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	岡本 洋之	95	07	竹中 暉雄	98	13	三浦 俊介	101
02	木下 昌巳	95	08	生瀬 克己	98	14	安田 真一	101
03	小柳 伸顕	96	09	並川 宏彦	99	15	柳父 章	102
04	佐藤 慶子	96	10	深澤 徹	99	16	清原 泰司	102
05	杉岡 信行	97	11	藤井 肇	100	17	小早川義則	103
06	滝澤 武人	97	12	藤原 健	100	18	佐藤 慶子	96

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
4. 96～01生については、学則上「共通自由科目（共通系）（2単位）」に位置づけられています。しかし、カリキュラム改訂により開講する「論述作文」は、4単位（通期）科目となりました。ただし、皆さんが「論述作文」を履修すれば、履修（登録）単位は2単位となるので注意してください。
5. 履修登録にあたっては、以下のとおり事前に予備登録（先着順ではない）が必要です。

対象者：96～01生（全学部・全学科）

定員：30名

日時：3月20日（水）～3月30日（土）学務課執務時間内

平日：9:10～16:40（11:30～12:30 昼休憩）

土曜：9:10～13:00（該当土曜日に限り昼休憩なし）

場所：自由投函箱（学務課ロビーに設置）

クラス発表：4月10日（水）聖アンデレ館下掲示板

- 申込方法：①「論述作文予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入し提出してください。
- ②希望するクラスを3つ以内で記入してください。
ただし、同一クラスを記入することはできません。また、すでにクラス発表されたものや、予備登録で決定したものと重ならないようにクラスを選定してください。
- ③記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	北條 仁志	88	15	田村 昶三	90	28	水口 薫	92
02	北條 仁志	88	16	田村 昶三	90	29	水口 薫	92
04	巖 圭介	88	17	藤間 真	90	30	水口 薫	92
05	岩田 賢造	89	18	永田 淳次	91	31	水口 薫	92
06	岩田 賢造	89	19	永田 淳次	91	32	水口 薫	92
07	岩田 賢造	89	20	永田 淳次	91	33	水口 薫	92
08	岩田 賢造	89	21	永田 淳次	91	34	水口 薫	92
09	杉原 一臣	89	22	朴 修賢	91	35	井上 敏	93
10	杉原 一臣	89	23	朴 修賢	91	36	井上 敏	93
11	杉原 一臣	89	24	朴 修賢	91	37	井上 敏	93
12	杉原 一臣	89	25	朴 修賢	91	38	井上 敏	93
13	田村 昶三	90	26	水口 薫	92			
14	田村 昶三	90	27	水口 薫	92			

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
5. この科目は、学則上「共通自由科目（共通系）（2単位）」、社会福祉学科生は「共通自由科目（共通系）（2単位）」「社会福祉学科自由科目（2単位）」に位置づけられています。
6. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順ではない）**が必要です。

対象者：96～01生（全学部・全学科）

定員：35名

日時：3月20日（木）～3月30日（土）学務課執務時間内

平日：9:10～16:40（11:30～12:30 昼休憩）

土曜：9:10～13:00（該当土曜日のみ昼休憩なし）

場所：自由投函箱（学務課ロビーに設置）

クラス発表：4月10日（水） 聖アンデレ館下掲示板

申込方法：①「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出してください。

② 希望するクラスを3つ以内で記入してください。

ただし、同一クラスを記入することはできません。また、既に予備登録を済ませた科目やクラス発表のあった科目と重ならないよう注意してください。

③ 記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

<注意>経営学部生については、「プログラミング論B」と「コンピュータ利用Ⅰ」の、いずれか一方しか履修・修得することができないので注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅰ 泉州の今昔Ⅰ		春学期	2単位	深 澤 徹
【講義概要・学習目標】 人間が生きているということは、この世界の中に、自分の固有の場所（トボス）を確保するに尽きる。この世界の中で、特定の場所（トボス）を占めながら、今このときを生きている個々人は、代替不可能な存在としてあり、その意味で場所（トボス）の問題は人間の存在をめぐる、哲学的な重要課題である。こうした観点に立って、本学が立地する和泉市を中心に、ひろく南大阪全域を視野に入れ、その歴史と文化の掘り起こしを行う。そのことを通して、地域に対する親しみを覚え、あらたな故郷創りや、地域コミュニティの大切さを実感してもらう。そして、他の誰にも代わることの出来ないかけがいのない自分の存在、その自分が、今このときに身を置いて場所を占めている、この泉州の地域を深く知ること、それは同時に、自分とは何かという問いへと還ってくることを実感として体得してほしい。	【講義計画】 泉州地域の前近代（古代・中世・近世）における歴史や文化を、ゲスト講師により講義してもらう（なお講義内容の詳細については、後日教場にて配布するシラバスをもって替える）。			
【成績評価の方法】 出席状況、及び、講義で紹介されたいくつかの「地域」へ実際に足を運び、フィールドワークし、そのレポートをもって評価とする。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅰ 泉州の今昔Ⅱ		秋学期	2単位	深 澤 徹
【講義概要・学習目標】 人間が生きているということは、この世界の中に、自分の固有の場所（トボス）を確保するに尽きる。この世界の中で、特定の場所（トボス）を占めながら、今このときを生きている個々人は、代替不可能な存在としてあり、その意味で場所（トボス）の問題は人間の存在をめぐる、哲学的な重要課題である。こうした観点に立って、本学が立地する和泉市を中心に、ひろく南大阪全域を視野に入れ、その歴史と文化の掘り起こしを行う。そのことを通して、地域に対する親しみを覚え、あらたな故郷創りや、地域コミュニティの大切さを実感してもらう。そして、他の誰にも代わることの出来ないかけがいのない自分の存在、その自分が、今このときに身を置いて場所を占めている、この泉州の地域を深く知ること、それは同時に、自分とは何かという問いへと還ってくることを実感として体得してほしい。	【講義計画】 泉州地域の近代（明治・大正・昭和・平成）における歴史や文化を、ゲスト講師により講義してもらう（なお講義内容の詳細については、後日教場にて配布するシラバスをもって替える）。			
【成績評価の方法】 出席状況、及び、講義で紹介されたいくつかの「地域」へ実際に足を運び、フィールドワークし、そのレポートをもって評価とする。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																						
総合講座Ⅰ ITの活用の実際		春学期	2単位	藤間 真																						
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>新聞・雑誌にURL(いわゆるホームページアドレス)が掲載されない日が無くなったことからわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。</p> <p>本講義では、各業種で第一線でITを活用している現場の皆さんに来ていただいて、最先端の企業の活用状況を話していただく。</p> <p>また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場に必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。 2回目以降に関しては講義計画執筆時(2001年12月)現在交渉中である。参考の為に2001年度の実績を下表に示す(順不同)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>招聘元企業</th> <th>題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シャープ</td> <td>「SCMの実例」</td> </tr> <tr> <td>鐘淵化学工業</td> <td>「情報システムの変遷と本質」</td> </tr> <tr> <td>ニフティ</td> <td>「インターネットビジネスの展望」</td> </tr> <tr> <td>ダイエー</td> <td>「流通業の世界のトレンド」</td> </tr> <tr> <td>武田薬品工業</td> <td>「ITによる企業・社会の変化」</td> </tr> <tr> <td>大阪瓦斯</td> <td>「公共事業の情報システム」</td> </tr> <tr> <td>新日本製鐵</td> <td>「製鉄所におけるIT」</td> </tr> <tr> <td>関西電力</td> <td>「関西電力におけるIT活用事例」</td> </tr> <tr> <td>ダイキン</td> <td>「企業経営とIT」</td> </tr> <tr> <td>ダン</td> <td>「靴下屋の情報戦略」</td> </tr> </tbody> </table> <p>最終回にまとめを行う。</p>	招聘元企業	題目	シャープ	「SCMの実例」	鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と本質」	ニフティ	「インターネットビジネスの展望」	ダイエー	「流通業の世界のトレンド」	武田薬品工業	「ITによる企業・社会の変化」	大阪瓦斯	「公共事業の情報システム」	新日本製鐵	「製鉄所におけるIT」	関西電力	「関西電力におけるIT活用事例」	ダイキン	「企業経営とIT」	ダン	「靴下屋の情報戦略」		
招聘元企業	題目																									
シャープ	「SCMの実例」																									
鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と本質」																									
ニフティ	「インターネットビジネスの展望」																									
ダイエー	「流通業の世界のトレンド」																									
武田薬品工業	「ITによる企業・社会の変化」																									
大阪瓦斯	「公共事業の情報システム」																									
新日本製鐵	「製鉄所におけるIT」																									
関西電力	「関西電力におけるIT活用事例」																									
ダイキン	「企業経営とIT」																									
ダン	「靴下屋の情報戦略」																									
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>																								

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅰ スポーツの功罪		秋学期	2単位	松 浦 道 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>スポーツが大きな社会現象となって久しく、益ます多様化し発展しています。近代から現代にかけてスポーツは趣味や社交、教育や政治、職業や経済あるいは法律や思想、文化の分野に関連してきました。今や健康や生きがいなど、21世紀においては一層グローバルに、多様に発展いくことでしょう。しかしそこには無条件で礼賛できないこともあります。個人や社会を問わず、スポーツの持つ影響は大きく、その功罪についてそれぞれの担当者に自由に論じてもらいます。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1回目の講義でガイダンスをします。各担当者の紹介とそれぞれのテーマを知らせます。トータル12回の講義で1人1~2回の担当予定です。チーフ松浦の他に滝澤、坂、高、今西、永谷が担当します。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中にそれぞれ担当者が知らせます。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座Ⅱ（地域の歴史と文化財保存）		通 期	4 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>歴史を学ぶことは楽しい。しかし、「歴史は暗記物」とか、「歴史は藤原氏や信長・秀吉のような偉人がつくるもの」とか、「文化財」というのは立派なお寺や神社にだけあるもの」といった誤解は根強い。</p> <p>そうではない。歴史は、私たちの日々の生活や身近なところで起こっている出来事の積み重ねのなかからつくられていくのだ。そうした身近な世界の歴史を、さまざまな材料を使って調べ、そこから社会の成り立ちや私たちの課題を見極めていくことが「歴史を学ぶ」ということなのだ。そして、そのようにして歴史を学ぶことのできる材料が、史料であり文化財なのだ。</p> <p>この講義では、①私たちが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、こうした史料＝文化財がどのような形であるのか、②地域に残されたさまざまな史料＝文化財から、どのような地域の歴史が明らかになるのか、③地域の文化財を保存することには、どんな意味があるのか、について考えたい。</p> <p>具体的には、各分野で地域の歴史研究や史料の保存に携わっている専門家を招いてリレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>（前期）文化財保存の最前線</p> <p>考古学における資料／埋蔵文化財の調査／埋蔵文化財の保存と破壊 中世荘園の世界／絵図から読みとる荘園世界／荘園景観の保存 阪神淡路大震災と被災史料救出・保全活動／震災資料の収集と保存 ／公害問題の歴史と史料保存</p> <p style="text-align: right;">ほか</p> <p>（後期）和泉市の地域史と文化財</p> <p>池上・曾根遺跡／古墳の造営／古代窯業地域・陶邑（すえむら） 自治体史の編さんと史料保存／地域の歴史的総合調査研究 古代・中世の松尾寺地域／古文書からわかる江戸時代の村 和泉市域の近代史／地域に残る戦争遺跡</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで各講師が随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>各講師がプリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情（外国人留学生用）		秋学期集中	4 単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この授業は留学生を対象とするものであり、彼らももっとも関心を持つ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察する。日本社会についての知識を得るというよりはむしろ、なぜそういう現象が表れるのかを授業中でのディスカッションを通して、留学生自身が考え、自分の意見を作り上げていくことをめざす。ディスカッションの幅を広げるために、日本語教師をめざす日本人学生にも参加を求める予定。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>時宜に応じたテーマを設定し、それに関連する新聞や雑誌の記事を読んだり、テレビ番組などを見る。その後、ディスカッションを経て、レポートを書き、それを授業で発表する。ディスカッションには日本人学生も参加して、議論の幅を広げるとともに、互いの考えを共有する機会とすることをめざす。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席をまずなにより重視する。授業中のディスカッションへの参加の度合い、テーマ毎に課せられるレポートなどを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>特になし。テーマに応じて授業中に言及する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定はしない。必要な資料は教員が用意し、配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本古典文学		通 期	4 単位	安 田 真 一
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>『とりかへばや』は、平安時代末期に成立した物語である。『源氏物語』以降の物語がその影響下に作られたように『とりかへばや』も影響を受けている。とはいえ、この物語の他にない大きな特徴は、瓜二つの男女きょうだい、それぞれ男装・女装しているところにある。</p> <p>従来、類廃的と評されてきた物語であるが、最近のジェンダー批評によって、ようやく正当な評価の端緒が付けられつつある。男装の姫君を中心に引き起こされる物語は、王朝物語のパロディでもあるし、女性としての苦悩や〈性〉に関わる権力の問題も関わってくる。</p> <p>物語を読む上で、その話の筋のおもしろさ・興味以上に、読むための〈技術〉〈方法〉によって様々な問題点が浮上してくる。講義では、ジェンダー批評を中心に据え、現代にも連綿とつながる問題系についても考えてみたい。</p>	<p>最初に、『とりかへばや』の物語史的な位置づけをおこなう。その際、現存しない散逸した『古とりかへばや』についても言及する。</p> <p>その後ジェンダーについて概説し、冒頭場面から読み、分析するテーマを設定して読み進めていく。その際、語義・風俗などの注釈的な問題や、先行作品との関連についても触れていく。</p> <p>古典を読むことが得意でない人もいると思うが、わからないなりに古典の本文と対峙してほしい。ただ意味をたどっていくような講義はしていかない。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
レポートによる。	『堤中納言物語 とりかへばや物語』新日本古典文学大系（岩波書店） 『とりかへばや物語全訳注一～四』（講談社学術文庫） 『とりかへばや』中世王朝物語全集（笠間書院） 田中新一他『新釈とりかへばや』（風間書房）			
[教科書]				
鈴木弘道校注『校注とりかへばや物語』（笠間書院）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代文学		通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>日本の近代（明治・大正・昭和）に生きた作家の短編小説を通して、人間の生きざまを探ってゆく。現代に生きる私達を考える上で、大きな指標となるはずである。</p>	<p>担当者を決めて発表させ、質疑応答と討論で授業を進めるので、発表者以外にも積極的に意見をのべてほしい。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席を重視し、前・後期末試験に、授業中の発表、態度を加算する。				
[教科書]	必要に応じて紹介する。			
作品をコピーして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化論		通 期	4 単位	村 上 昌 孝
<p>[講義概要・学習目標] ある文化圏で生み出された文物が他の文化圏に伝えられる場合、それぞれの文化にふさわしいものに作り替えられるのが常である。異文化の受容と変形の問題を考える材料として、インド説話を取り上げる。インド説話は、仏教説話の漢訳を通じて日本に伝えられた。その一方、インドで制作された物語集がイスラム圏で翻訳され、ヨーロッパに伝えられることにより、これらの地域の説話・伝承に大きな影響を与えている。この講義では、インド説話が東西に伝播する際、どのような変化がなされたのかを学習することを目標とする。</p>	<p>[講義計画] インド説話に関する概説の後、まず、東方への伝播の具体例を検討していく。インド説話が仏教を説き明かすための例え話として取り入れられた際にも、仏教の教理に即した変化が施されているのはもちろんのことだが、これが中国・日本へと伝承されていく過程で、それぞれの文化に適合するように、更なる変化が施された。同系統の説話の、インド・中国・日本での伝承の違いを比較する。ついで、西方への伝播に関しても同様の検討を行うこととする。</p>			
<p>[成績評価の方法] 平常点とレポートによる。</p>	<p>[参考文献] 岩本裕『仏教説話の源流と展開』，東京，1978.</p>			
<p>[教科書] 講義の際に資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋近代史		通 期	4 単位	山 田 義 顕
<p>[講義概要・学習目標] 近代ヨーロッパとは、ヨーロッパの拡大の時代でもあった。しかしこの時代は、必ずしも明るい時代だったとはいえないし、この時代全体を通じてヨーロッパ諸国による世界支配、つまり非ヨーロッパ地域の隷属化が完成するのである。 この講義では、いくつかのテーマを設定して近代の暗い面と明るい面をとりあげることとするが、学生諸君には、歴史のなかで「近代」のもつ意味を改めて考えてもらいたい なお、講義のさいにミニ・レポートを課することがある。質問・疑問などを書いてもらい、それにもとづいてさらに講義を進めることにしたい。</p>	<p>[講義計画] 主なテーマ ①時代区分としての「近代」：近代とはどのような時代か。いくつかの時代区分を紹介したうえで、近代の特質を考える。 ②ペスト：中世後期から19世紀まで、ヨーロッパ社会は断続的にペストに悩まされた。このペストが社会に与えた影響について考える。 ③魔女：魔女とは何か。魔女はなぜヨーロッパ特有の現象だったのか。 ④宗教改革：時代背景を整理したうえで、ルターとカルヴァンの職業観の比較をおこなう。 ⑤大航海の時代：ヨーロッパの拡大の過程と、それがもたらした諸問題について論じる。 ⑥奴隷貿易：大西洋を中心にした奴隷貿易とその意味について論じる。 ⑦産業革命：研究史を紹介したうえで、この革命がもたらした功罪を考える。 ⑧19世紀ナショナリズムの諸問題：その概念、発現形態、具体例（ドイツ統一）などについて論じる。 ⑨帝国主義の時代：19世紀後半のヨーロッパ列強の対立・抗争について論じ、第一次世界大戦への道を探る。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席と、レポートもしくは 試験によって評価する</p>	<p>[参考文献] 講義中に必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書] なし。講義のさいに、プリントを配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然環境論		通 期	4 単位	井 田 和 子
[講義概要・学習目標] 自然秩序や自然システムの複雑な因果関係を軽視した大規模な資源開発や土木・建設事業などが、大災害の原因や誘因になることが多くなった。地域的自然システムの地球科学的認識、人間を含む全生態系の研究や地域環境学としての地理学の考察と応用が不可欠なのである。ここでは、日本列島の風土的特色を総合的に把握できるように留意した。	[講義計画] [前 期] 日本の歴史的風土、日本人の自然観、日本の地質・地形、地形環境と開発史、日本の気候の特色と生活、水文環境、日本の森林と文化、自然環境の利用と保全 [後 期] 大気汚染・水汚染の舞台、土・植生と環境、人口・都市と環境、産業と環境、交通と環境、開発と保全、公害都市（各国の公害）。			
[成績評価の方法] テーマに関するビデオを見て数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	[参考文献] 必要に応じて授業中に示す。			
[教科書] とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語III (外国人留学生用)		通期	4 単位	有川康二
[講義概要・学習目標] 大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書として専門書を読み、レポートを書く。．．．外国語でこれらの作業を行うには高度の外国語運用能力を必要とする。このクラスでは特に、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読解力と正確な作文能力に焦点を絞って訓練を行う。	[講義計画] 内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。 随時、作文指導を行う。			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 辞書を常時携帯すること。			
[教科書] 読解資料はこちらで用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育哲学		秋学期	2 単位	徳 永 正 直
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>無力な赤ん坊が「教育」と「学習」を通じて発達し、それぞれの人間性を実現していく過程を、「社会化」「文化化」「精神化」「人格化」の過程として捉え、とりわけ「社会化」「文化化」の過程に関連して、言語の人間形成論的意義をボルノー（O.F.Bollnow）やブーバー（M.Buber）を手がかりとして明らかにする。また、「精神化」「人格化」に関連して道徳性の発達や本来の自己としての実存の問題を、コールバーグ（L.Kohlberg）やフランクル（V.E.Frankl）の考え方を参考にして検討する。</p> <p>教育哲学のなかで、「教育」という事象を根源的、全体的に捉えることの重要性に気づくことができれば幸いである。</p>	<p>①教育事象を哲学すること ②「教育されねばならない動物」(animal educandum)としての人間 ③ゲーレン（A.Gehlen）の人間学 ④ボルノーにおける言語の人間学的考察 ⑤ブーバーの対話的原理について ⑥コールバーグの道徳性発達の理論と普遍妥当的道德律 ⑦フランクルの実存分析 ⑧自我同一性と十牛図 それぞれのテーマについて約1時間解説し、人間形成論的意義と一緒に考えてみたいと思う。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>定期試験によって評価するが、履修者が少ない場合には平常点を考慮し、場合によってはレポート（2000字以上）で評価する。</p>	<p>講義中にそのつど指示する。</p>			
[教科書]				
<p>教科書は用いず、そのつどレジュメを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育史		秋学期	2 単位	岡 本 洋 之
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>教育史とは、文字通り教育の歴史である。しかし「歴史」といわれると暗記ばかりで苦痛なもの、難しい人名や地名ばかりで無味乾燥なものというイメージが付きまとう。多くの小・中・高校での誤った歴史教育がそのようなイメージをつくりあげてしまったのは残念である。</p> <p>本授業では、教育の通史は扱わない（通史を学びたい人には、[参考文献]欄に示した山住書が面白く読めるのでそれを薦める）。その代わり、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけではなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえることにし、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることを知ってもらおう。こうして少しでも教育史に親しんでもらうことが、本授業の目標である。</p>	<p>受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び、その内容を紹介する報告書（1冊につきB5サイズ1枚）を提出するものとする。</p> <p>こうして報告された本に関して、立候補（または指名）により決められた発表者が、本の中の教育史的内容と感想を順次口頭発表する。</p> <p>時間の関係で発表できなかった者には、同様の内容のレポートを課す。</p> <p>★題材として取り上げる本の例……妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』、乙竹洋匡『五体不満足』ほか。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>提出物の内容と、授業中の発表による。 ★発表の意志を示さない者の単位は認定しない。</p>	<p>山住正巳『日本教育小史』（岩波新書）</p>			
[教科書]				
<p>未定につき、開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育行政学		秋学期	2単位	金子勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育行政は「包括的な権力団体としての国家または地方公共団体が、教育政策を定立し、公的承認を受けながら、それを現実化する作用・行為」と定義される。現実の社会において、公教育の実施を保障する教育行政の役割と責任は重大である。</p> <p>教育行政が行政の一分野であることはいまでもなく、それゆえ教育行政には規制作用が伴う。しかし、教育行政の特徴は、教育条件の整備という、助成作用が、その主要部分を占めるところにある。人間形成を通じて社会の発展を支援することは、教育行政の責務である。</p> <p>講義では、まず、教育行政を特徴づける基本原理として「法律主義」、「地方自治」、「教育の自主性・専門性の尊重」をとりあげ、伝統的な学説と現状について講述する。次に、いくつかの教育政策に関する立案・実施過程をとりあげて、教育行政の個別領域における理論と実際の諸相を、具体的に解説する。そして、急激に変化する社会において、教育行政に期待される役割について、理解を深めることとしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育行政の概念 2 教育行政における法律主義 3 教育行政における地方自治 4 教育の自主性・専門性の尊重 5 中央教育行政の組織 6 地方教育行政の組織 7 教育行政と学校経営 8 教育財政 9 私学行政 10 教育政策と審議会 11 諸外国の教育行政 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートによる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>市川昭午『教育行政の理論と構造』教育開発研究所 市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究所 黒崎 勲『教育行政学』岩波書店 平原春好『教育行政学』東京大学出版会 村山英雄・高木英明編『教育行政提要』ぎょうせい 文部省『我が国の文教施策』大蔵省印刷局</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育法規		春学期	2単位	金子勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>元来、教育は私事であり、国家の関与を前提とするものではなかった。しかし、近代公教育制度の成立以後は、学校教育の重要性が明白になり、国家的な関心が高まった。</p> <p>国家が教育に関与するとき、その在り方は助成的で、また、規制的である。例えば、義務教育を実施するために、制度的・財政的な支援が行われる。しかし、その反面、義務教育に関する、さまざまな規制が存在するのも事実である。</p> <p>そのような国家と教育の関係は、教育法規によって規律される。それは、憲法や法律のほか、各種の命令から成り立ち、きわめて複雑な体系を形成している。そこで、この講義では、教育法規のなかから、特に重要なものを取り上げ、その内容と解釈について、講述する。</p> <p>なお、最近では、社会の急激な変化に対応するために、教育法規の改正が頻発である。そこで、「今、教育に何が起きているのか」を問いながら、生きた教育法規の理解を目標として授業をおこなう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育法規の体系と種類 2 憲法・教育基本法 3 学校教育法 4 学校設置基準・標準法 5 学習指導要領・教科用図書 6 文部科学省設置法 7 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 8 私立学校法 9 国家公務員法、地方公務員法、教育公務員特例法 10 教育職員免許法 11 社会教育法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートによる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」(答申)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>	<p>菱村幸彦『やさしい教育法の読み方』教育開発研究所 鈴木勲編著『逐条学校教育法』(第4次改訂版)学陽書房 木田宏『第二次新訂逐条解説地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第一法規 宗像誠也『教育と教育政策』岩波書店 兼子仁『国民の教育権』岩波書店</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育評価論		秋 学 期	2 単 位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、次の2点である。</p> <p>1. テスト理論、特に「良い」テストの条件である妥当性、信頼性、実用性について、理解し、テストデータを分析できるようになること。</p> <p>2. 教育研究、教育実践に必要な統計処理をパソコン(表計算ソフトExcel)を使って出来るようになること。</p> <p>*授業はすべて、学生参加型のワークショップの形態をとる。 *理論を学習した後、パソコン実習をPC教室で行う。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. ガイダンス(教育評価)</p> <p>2. 相対評価(集団準拠テスト)、絶対評価、到達度評価(目標準拠テスト)</p> <p>3. 分布、分散、標準偏差、標準得点、偏差値、5段階評定</p> <p>4. パソコン実習 1</p> <p>5. テストの目的と種類、関連</p> <p>6. パソコン実習 2</p> <p>7. 妥当性(内容妥当性、構成概念妥当性、併存的妥当性、予測的妥当性)</p> <p>8. 信頼性(再テスト法、折半法、クロンバックα、KR20)、標準測定誤差</p> <p>9. パソコン実習 3</p> <p>10. 項目分析(項目困難度、項目弁別度 点双列相関係数)</p> <p>11. パソコン実習 4</p> <p>12. 等化、古典的テスト理論、現代テスト理論(項目応答理論)</p> <p>13. 定期試験</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>課題(PC実習を含む) 数回 50%</p> <p>試験(PC実習を含む) 1回 50%</p>		<p>[参考文献]</p> <p>池田 央 「テストの科学—試験にかかわるすべての人に—」 日本文化科学社 1992</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育・心理学特講(不登校といじめ問題)		春 学 期	2 単 位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>青年期の子ども達の心のゆれについて、「不登校」と「いじめ」問題等を手がかりに考えたい。保護者側の問題として浮上している「児童虐待」を取り上げると共に、子どもの問題に対する治療実践や教育実践についても見ていきたい。毎回、ビデオ資料を手がかりにする。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. 14歳の心の風景</p> <p>2. 子ども達のSOS</p> <p>3. 教師、今何ができるか</p> <p>4. 中学生日記 激論ドラマ「いじめ」</p> <p>5. 不登校</p> <p>6. 絵の中のわたし</p> <p>7. ひきこもり</p> <p>8. 児童虐待</p> <p>9. 不登校児から学ぶこと</p> <p>10. 非行診療室</p> <p>11. 北星学園余市高校</p> <p>12. 梅子先生</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業毎の小レポートならびに期末考査の結果を総合して行う。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業内で、適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館通論		春学期	2 単位	志保田 務
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をするところかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界の将来等について検討する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館とはなにか 2. 図書館の果たす役割 3. 情報の伝達と図書館 4. 社会、生涯学習と図書館 5. 図書館の構成要素 6. 図書館の種類（館種） 7. 公共図書館：理念 8. 公共図書館の歴史と現代 9. 公共図書館の利用者 10. 図書館の自由 11. 図書館経営 12. 図書館と情報化 13. 図書館の将来。テスト 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト80% レポート 20%</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書] 志保田務編著『図書館概論』（樹村房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館資料論		秋学期	2 単位	濱 崎 邦 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館を構成する要素の中で最も重要な図書館資料の実態と特質を論じ、収集と利用、選択と出版流通の問題点を明らかにするとともに、受入業務、資料管理などについて講述する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館資料とはなにか 2. 図書館資料の種類 3. 図書館資料と図書館の自由 4. 図書館資料の種類と特質 5. 資料の出版と流通 6. 資料の評価と選択 7. 資料の収集 8. 蔵書構成 9. 資料の受入 10. 資料管理 11. まとめ 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験</p>		<p>[参考文献]</p> <p>志保田 務 [ほか] 編著 『資料・メディア総論－図書館資料論・専門資料論・資料特論の統合化』 学芸図書</p>		
<p>[教科書]</p> <p>馬場俊明編著 『図書館資料論』 日本図書館協会（JLA 図書館情報学テキストシリーズ7）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書及び図書館の歴史		秋学期	2 単位	上 田 格
〔講義概要・学習目標〕 人間の体外記憶媒体である図書は、依然として図書館資料の中心位置を占めている。その図書の歴史の変遷をたどり、最新の電子資料にいたる歩みを概説する。 次に、図書をはじめとする各種のメディアの保管・提供の場所であった図書館が、一部特権階級の人たちの私有物であった時代から、広く一般大衆に開放されるまでの、思想的・制度的変遷の経過をわかりやすく講義する。	〔講義計画〕 1. 記録の誕生と図書の歴史 2. 印刷の歴史 3. 非図書の出現 4. 古代の図書館 5. 中世の図書館 6. 近世の図書館 7. 近代図書館の先駆け 8. 近代公共図書館の誕生 9. 日本の近代図書館の歩み 10. 日本の近代図書館の歩み 続			
〔成績評価の方法〕 定期試験（筆記）を行って評価する。	〔参考文献〕 『図書館 その本質・歴史・思潮』増補版 岡田 温著 丸善 『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂 『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会（図書館員選書 31）			
〔教科書〕 『図書館の話』森 耕一著 至誠堂（至誠堂選書）				

< 97～01生対象 >

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童サービス論		春学期	2 単位	清 水 昭 治
〔講義概要・学習目標〕 この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生・中学生までの中広の本が準備されています。まず、この現実を学びます。少子化時代に入り、絶対数の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を土さえる児童サービスの重要性を考えます。生涯教育が叫ばれる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。	〔講義計画〕 講義と共に、具体的に、実際に、多量に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みかかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。 又、ビデオ・スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びます。			
〔成績評価の方法〕 レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や、平常成績とを、総合評価します。	〔参考文献〕 参考文献は、講義の中心、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。 特に、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できることと思います。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
専門資料論		春学期	2単位	松永 俊男
[講義概要・学習目標] 人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。	[講義計画] 1. 学術文献とはなにか 2. 分野の特徴と学術文献 3. 学術雑誌の特徴 4. 学術文献の歴史 5. 雑誌 nature について 6. 学術における不正 7. 二次資料について 8. 百科辞典について			
[成績評価の方法] 平常点と最終テストを総合して評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生涯学習概論	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	伊藤 正純
[講義概要・学習目標] 1960年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習が提唱されてきたのは、先進国では急速な技術革新と高齢化の進展によって、また後進国では貧困から脱出するために、生涯学習の機会を提供する必要がある。このように国際的動向を踏まえ、労働市場プログラム、成人教育、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、学習サークル等）を紹介し、それと対比して、日本の「生涯学習社会」とその現状（社会教育と生涯学習、学社連携、大学拡張＝エクステンション、自治体の生涯学習事業、市民大学等）を明らかにする。	[講義計画] 1. 生涯学習とは何か ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論 2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実験 労働市場プログラム、リカレント教育、コミュニケーション成人教育、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル 3. 日本の「生涯学習社会」とその現状 (1) 臨教審答申、生涯学習振興法 (2) 生涯学習機関としての大学 (3) 地方自治体の取り組み			
[成績評価の方法] 司書および学芸員資格取得科目であるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価は8割をこの感想文で、2割を期末の試験で行う。なお、20分を超えた遅刻は認めない。	[参考文献] 1. 黒沢惟昭他編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社 2. 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部 3. 倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社 4. 相庭和彦『生涯学習から地域教育改革へ』明石書店 5. 森岡孝二他編『21世紀の経済社会を構想する』桜井書店			
[教科書] 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館サービス論		春学期	2 単位	西 田 文 男
〔講義概要・学習目標〕 わが国の図書館は、図書館法によって大きく変わった。図書館サービスとはなにか、種々のサービスを取り上げ、その意義と内容を解説する。(ただし、児童サービス及びレファレンスサービスは除く)	〔講義計画〕 1. 図書館サービスの理念と意義 2. 図書館サービスの計画と評価 3. 図書館活動の発展 4. 図書館サービスの現状と種類 5. 図書館図書館づくりの政策と運動 ※理解を深めるため、必要に応じてビデオを上映する。			
〔成績評価の方法〕 定期試験の成績によって評価する。	〔参考文献〕 その都度指示する。			
〔教科書〕 塩見 昇「図書館サービス論」 教育史料出版会				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
資料特論		秋学期	2 単位	松 永 俊 男
〔講義概要・学習目標〕 行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。	〔講義計画〕 1. はじめに 2. 行政資料について 3. 情報公開制度について 4. 公文書館について 5. 視聴覚資料について 6. CD-ROMの利用 7. 郷土資料について 8. まとめ			
〔成績評価の方法〕 講師それぞれの評価(テストまたはレポート)を総合して評価する。	〔参考文献〕			
〔教科書〕				

共通自由

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
図書館特論		秋学期	2単位	志保田務
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>明治時代以来日本の図書館情報学が大きな影響を受けてきたアメリカ図書館情報学について、最近の研究成果を中心に講義を構築する。</p> <p>昨今におけるアメリカ図書館情報学の中心的な関心事は、図書館の自由（知的自由）、インターネット、法との関係（図書館関係訴訟、著作権など）といえる。</p> <p>これらの点について、アメリカにおける学修（研究）、体験的習得法を軸に、若い研究者たちの、気鋭の発表を中心にすすめる（インテグレーション）。</p> <p>以上をインテグレーション・チーフにおいて総合し、学生が近来のアメリカ図書館情報学についておおよそを把握できるよう図る。</p> <p>なお、アメリカ図書館情報学と交流する場合、日本語、英語における専門用語の表現の相違・対応に留意する必要もあり、この点にもそなえをする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 図書館特論概説 志保田務</p> <p>2 図書館情報学概説 志保田務</p> <p>3 アメリカ図書館学概観 志保田務</p> <p>4 公立図書館の目的と知的自由 高鍬裕樹</p> <p>5 インターネット時代と図書館の自由 高鍬裕樹</p> <p>6 公立図書館と法（日米概観） 前田稔</p> <p>7 パブリック・フォーラムとしての公立図書館 前田稔</p> <p>8 アメリカ公立図書館史観 薬師院はるみ</p> <p>9 公立図書館の目的の変化とその意味 薬師院はるみ</p> <p>10 図書館情報学の将来 志保田務</p> <p>11 日本における図書館情報の研究発表と英語 本山晶子</p> <p>12 まとめ 志保田務</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト70% 課題 20%</p> <p>出席 10%</p>	<p>[参考文献]</p> <p>川崎良孝『アメリカ公立図書館成立思想史』日本図書館協会 1991</p> <p>ウイン A. ワーガット『「図書館権利宣言」を論じる』川崎良孝、薬師院はるみ 共訳 京都大学図書館情報学研究会（日本図書館協会発売） 2000</p> <p>川崎良孝、高鍬裕樹『図書館・インターネット・知的自由：アメリカ公立図書館の思想と実践』 京都大学図書館情報学研究会（日本図書館協会発売） 2000</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業開始の時期に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館概論		春学期	2単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学会員資格課程の基幹科目である。最初の授業で、学会員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的はなにかについて、見取り図を提供する。</p> <p>この授業で、博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 博物館の目的と機能</p> <p>2. 博物館の歴史</p> <p>3. 博物館の現状</p> <p>4. 博物館倫理</p> <p>5. 博物館関係法規</p> <p>6. 生涯学習と博物館</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点、レポート、およびテストを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房(2001年)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論		通期	4単位	水口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館資料論」「博物館経営論」「博物館情報論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期)「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の歴史、機能、組織、施設の基礎的な考え方 <p>「博物館資料論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化 2. 博物館資料の保存、展示(常設展示、企画展示) 3. 資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識 <p>(後期)「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ミュージアム・マネージメント 3. 教育普及活動、ワークシート、ミュージアム・グッズ <p>「博物館情報論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館における情報の意義、提供について 2. 情報データベース、インターネットの活用方法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト(適時)、定期試験と出席点にて総合評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「ミュージアム・マネージメント 博物館運営の方法と実践」(東京堂出版) 大槻哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊(編)</p> <p>適時、プリントを配布。 その他、講義の時に提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」(雄山閣) 加藤有次、権名仙卓(編)</p>				

共通自由
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋美術史		春学期 集中	4単位	林 宏作
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国美術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国美術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術創造の基盤条件としての中国の自然と生活、社会 2. 先史時代の遺跡と出土した芸術品 3. 殷・周時代の文化と芸術 4. 戦国時代の混乱と芸術の衰退 5. 秦・漢時代、中華文明の形成と遊牧国家の成立が芸術に与えた影響 6. 南北朝時代の文化と芸術 7. 隋・唐・宋時代の文化と芸術、東アジア世界の形成と日本文化への影響 8. 元時代の書画 9. 明時代の文化と書画 10. 清時代、西洋列強の進出と伝統文化の対立 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
工学概論		秋学期集中	4 単位	並 川 宏 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>てとがでいる産クテ代選術業ク、 っ学方法科とい機ニオ年 変技工ニず に、のるれ気トバ) の業車口講 代き学すすき電クや合 技、自ケン 近つ科関に目とレ) 融とべ本レシ 、び然に発注業エ合の。学述日エン り結自業活て産ト融どる科をののエン あがな工にし械ブのなあ、成業車る で踐たはかと機オ業業で性形産動わ 史実新学い下(の産産例要の合自変 歴的で工を一ス代械業の重学総、で る術野。合ワク年機医その工てげ策 く技分た融一ニ80気、がり、し上対 つと業れのキロ、電品どく達とりス を産工ま術のとりと食なづ発つ取ガ 具遺、生技工力ま業、一物の一を気 道的のみが、性メレ産学ジ、業の選排 は論進学た活のは信化ロは工品変・ 史理が工ま済ばに通(ノで、製の費 の来融れいが代合情ジテ講融し工低 間以のら。題年融光ロのの化車、 人代術くる課の(ノナこそ物動車、 古技つあう1970業スクのとが自ス</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I . はとり IV . 換工の車カ燃 物何III工Vの立構エ技 づか、業、休、成レ術 く、科と工系理部クの りII学は学化、品ト変 の、と、と、日の口選 重科技機は工本変ニ 性との制工のお スIII とは成生学専けX . 開自のの学分自自IIと の然変成ぶ化動動、社 動物学、義VII座材全の 動科選立意、車車安会 界と科道、業、業材・調 かは学具VI日の技排和 ら、とか、本変術出技 の科技ら工に選のガ術 分学術機学お 変スの 化のの域とけIX選浄変 、は融へのる、化選 術ま 転立学動I低</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートの提出を課す。期末に試験をする。 試験の点数とレポートの評価で成績をつける。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>1 中村静治編「現代技術論」有斐閣'73. 2 石谷清幹著「工学概論」コロナ社'79. 3 荒川泓著「近代科学技術の成り立ち」北大図書刊行会'74. 4 日本自動車工業会編「日本自動車産業史」日本自動車工業会'88.</p>			
<p>[教科書]</p>				

共通自由
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	01	通 期	4単位	駿河 輝和
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代経済における市場の果たす役割を理解することと、現実経済分析に必要な価格理論の考え方を習得することを目的にしている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>需要と供給、消費者行動、生産者行動、競争市場と効率性、独占寡占、市場の失敗など経済主体の行動分析と市場の働きについて講義する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>2回の試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>井堀利宏著『入門ミクロ経済学』新世社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	02	通 期	4単位	牧野 源泉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義のねらいを一口で言えば、市場機構の機能とパフォーマンスを理解していただく、ということです。 そこでまず、個人の消費計画や企業の生産計画はどのように立てられるのか、また、価格は消費計画と生産計画の不整合をどのように調整するか、といった市場メカニズムの基本的な問題を説明します。続いて、市場メカニズムの評価に目を向け、広い意味での「市場の失敗」の問題に言及します。 さらに、近年注目されているゲーム論的接近の仕方、および、不完全情報や不確実性のもとでの意志決定といった問題にも触れます。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 需要と供給 2 消費者行動と需要曲線 3 労働供給の理論 4 費用構造と生産 5 市場均衡と資源配分 6 市場の失敗と公共部門の役割 7 不完全競争の理論 8 ゲームの理論 9 不完全情報の経済学 10 不確実性とリスク 11 異時点間の意志決定と利子率 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に時折行う小テストと学年度末試験とによって評点をつけます。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社 ・倉澤資成『入門価格理論』日本評論社 			
<p>[教科書]</p> <p>伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	03	春学期集中	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学の基礎理論について講義する。</p> <p>①家計(消費者)・企業(生産者)といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか</p> <p>②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか</p> <p>③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるのか</p> <p>といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。</p> <p>ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となる。本講義では、複雑な数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明するが、中学校程度の数学を用いた問題演習も行う。なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学の基本概念 2. 需要と供給 3. 消費者行動の理論 4. 生産者行動の理論 5. 市場均衡と経済厚生 6. 独占の理論 7. 生産要素市場 8. 不確実性と情報 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験および学期末試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>荒井一博『ファンダメンタル ミクロ経済学』 (中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	04	秋学期集中	4 単位	中 村 勝 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「ミクロ経済学」という分野を一言で言うならば、ある単位で区切った「市場」(これは地域単位や国・世界で区切ってもかまわない)における人々の行動やその構造などを、一消費者や一企業といった「(経済)主体」の合理的行動から説明しようとする分野である。この分析手法は、同じ近代経済学に属する「マクロ経済学」と対照的ではあるが、別にそれは良し悪しの問題ではなく、議論する目的に応じたものだと考えてもらったら差し支えない。</p> <p>そこでこの講義では、ミクロ経済学の基本的な部分を解説していくことにする。具体的には講義計画を参照していただきたいが、講義の半分以上を「完全競争市場」に関する議論を行い、その後現実に即した「不完全競争市場」などの応用分野について解説していきたい。ただし応用分野自体はきわめて広範囲にわたっている(貿易や、財政、環境[公害]、医療の問題など)ので、その全てを網羅できないことはご了承ください。ただし時間が許せば、講義で解説した内容を踏まえて、現段階での最新の研究動向についても触れてみたい。</p> <p>ただしミクロ(及びマクロ)経済学の分析には、みんなの大得意(?)とする「数学」が積極的に利用されている。本講義では高校初期までの数学を用いて講義するところがあるが、大抵は数式の展開は利用せず、図形を多用して講義していく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序論. 経済数学入門</p> <p>I. 完全競争市場</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市場の基本構造(需要と供給) 2. 消費者行動 3. 企業行動 4. 価格決定、経済厚生、およびバレート最適 <p>II. 不完全競争市場</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (供給)独占の理論 2. 複(寡) 占の理論 ~ゲーム理論入門~ <p>III. 最新研究動向</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出席は基本的にとらない ②授業中に5~10回程度小テストを行う ③期末試験と小テストを総合して評価を行う 	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。適宜資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	竹 田 之 彦
[講義概要・学習目標] マクロ経済学の目的は、経済全体としてのシステムを分析し、国民経済全体の諸活動がどのようなメカニズムで絡み合っているのかを考察したうえで、さまざまな経済政策の必要性・可能性を探っていくことにある。本講義は、マクロ経済学の基本的な内容を理解してもらうとともに、マクロ経済学的な考え方を身につけてもらうことを目標とする。	[講義計画] 講義は、ほぼ教科書通りに授業を進め、年に2、3回、参考文献に載っている演習問題をレポートとして提出してもらう。また、年に何度か、授業時間内に小テストをおこなう可能性もある。 【授業内容】(予定) 1. マクロ経済学とマクロ経済 2. 乗数モデル 3. IS-LM分析 4. 財政金融政策 5. 失業とインフレーション 6. 開放経済 7. 経済成長モデル 8. 経済成長と貯蓄、投資 9. 内生的成長モデル 10. マクロ・ダイナミクス			
[成績評価の方法] 定期試験、レポート、小テスト等の結果を総合的に評価する。	[参考文献] 金谷 貞男 『演習 マクロ経済学』 新世社 1996年			
[教科書] 井堀 利宏 『入門 マクロ経済学』 新世社 1995年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	03	通期	4 単位	森 誠
[講義概要・学習目標] 近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介し、この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れていくはずです。 講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。	[講義計画] 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランスー貿易黒字と貯蓄ー 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、リカード命題 10、長期の最適化と財政政策の有効性			
[成績評価の方法] 年度末試験	[参考文献] ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式(命題に対する解説)をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。			
[教科書] 惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IA-2 (マクロ経済学)	04	秋学期集中	4単位	矢根 真二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>マクロ経済とは、日本やアメリカの国民所得・金利・失業・物価・為替などの動きです。「成長率鈍化」や「円高進行」といった形で、毎日のようにテレビや新聞で報道されています。それではどうして好況や不況、円高や円安が起きるのでしょうか？ なぜ、そうした変動が起こると困るのでしょうか？ さらに、どうすれば問題を解決できるのでしょうか？</p> <p>こうした課題に答えるために、様々なマクロモデル（マクロ経済を把握するためのモデル）が開発されています。マクロ経済学の目的は、マクロモデルの学習を通じて、マクロ経済の変動の原因と適切な政策を解明することです。</p> <p>基本的なマクロモデルは万国共通ですから、テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも、株式市場を動かすニュースや経済白書などの考え方をよりよく理解できるようになるはずですよ。</p> <p>ただしマクロモデルは現代経済学の基本的なパーツですから、ただ丸暗記してもダメで、現実を抽象化して論理的に考える科学的思考が必要です。実際、1年後の成長率やインフレ率を予測・説明するには簡単なグラフや数式によるモデルが必要になりますから、経済学のための数学入門や経済学基礎理論A（ないし経済原論IA-1）の知識が基本になります。もともと講義では、たとえ中学程度の知識でも必要な道具はすべて解説しますから不安になる必要はありませんが、記号や数字のアレルギーだけは解消しておきましょう。</p>	<p>[講義計画] テーマ： マクロモデル入門</p> <p>テキストは豊富な事例とグラフを中心とした入門経済学レベルの内容なので十分に独習可能でしょうから、講義ではグラフの背景にある簡単な基本モデルの理解と操作を中心に解説するのが特徴です。モデル思考に慣れ親しむことによって、テキストの諸例に多用されているミクロ経済学や財政金融政策との関連を効率的に理解し、同時に公務員試験やEREへの基礎力を養うためです。講義内容はテキストにはほぼ沿って以下のように進める予定です。</p> <p>(1) マクロ経済学とは？ (2) マクロモデルの基本： マクロモデルの諸類型 (3) 豊かさを見るメガネ： 実質GDPと日本の経済成長 (4) 長期趨勢を捉えるメガネ： 新古典的な伸縮価格モデル (5) 短期変動を捉えるメガネ： ケインズ派的な固定価格モデル (6) 財政・金融政策の有効性： 短期・長期・国際経済における政策効果 (7) インフレーションと失業： 市場・予想・政府の役割 (8) 現代のマクロ・トピックス： 現代マクロ経済学と日本経済の現状</p> <p>特にテキストと講義の内容の相違は短期のケインズ派の説明で、テキストでは超初心者向けということもあってIS-LMモデルやマンデル・フレミングモデルは簡単に触れられているだけですが、日本では依然として各種試験の中心項目であり財政金融政策の基本に据えられているので明示的に詳しく説明する予定です。詳細や関連文献は下記の教員HPを参照して下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の総合計点が6割以上なら必ず合格とする予定</p>	<p>[参考文献]</p> <p>●マクロモデルのベースは入門経済学（経済学基礎理論A）などで学習した「市場の均衡モデル」ですから、未履修者は市場均衡の決定や変化のメカニズムだけでもテキストの第1部の復習部分などで学習しておきましょう。</p> <p>●これはグラフで描けば中学時代に学習した2直線の交点の問題レベルですが、数学が苦手な経済学のための数学入門なども履修していない方は、図書館などでドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学 上』シーエービー出版の第1章・2章だけでも目を通せばやさしい解毒剤になるでしょう。</p> <p>●実際の景気や物価のデータの所在や参考文献などの詳細については、教員HP (http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/) を参照して下さい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>●マンキュー (2001)『経済学 II マクロ篇』東洋経済新報社 ⇒科学・モデル・関数・競争・市場・均衡といった現代経済学の基礎概念を忘れてしまった人でも、テキストの第1部に要約してあるので、とても便利な読みやすい超初心者向けのマクロの入門書です</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IB	01	春学期集中	4単位	滝田 和夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>マルクスの経済学について講義する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくことで講義が理解し易いであろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 経済学の対象と方法 II. 市場経済 1. 商品経済 2. 貨幣経済 III. 資本とその増殖 1. 貨幣の資本への転化 2. 絶対的剰余価値の生産 3. 相対的剰余価値の生産 IV. 価格と利潤 V. 資本の再生産と蓄積 1. 資本の蓄積過程 2. 社会的総資本の再生産過程 3. 利潤率の傾向的低下法則</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>置塩信雄 (著) 『マルクス経済学』筑摩書房 森嶋通夫 (著) 高須賀義博 (訳) 『マルクスの経済学』 (東洋経済新報社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>平井・北川・滝田 (共著) 『経済原論』 (有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論ⅠB	02	秋学期集中	4単位	松尾 純
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済の「復活」、中国共産党が推進している「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスの考えていた社会主義とはどのような社会システムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけているように思われる。</p> <p>他方、ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義もその行方は不透明であり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いているように思われる。</p> <p>本講義では、このような問題状況を克服する礎を得るために、資本主義批判と社会主義の実現を使命として100年前に誕生したマルクス経済学の新世紀における”再構築”を目指す。そのため、従来科学的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていくことにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 唯物史観とは何か。 2. 労働疎外論とは何か。 3. 『共産党宣言』には何が書かれているか。 4. マルクスの社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」</p> <p>(後期) 1. 経済学の対象と方法。 2. 商品とは何か。 3. 貨幣とは何か(本質と諸機能) 4. 資本とは何か。 5. 資本の生産過程 6. 資本の蓄積と再生産 7. 過剰人口論と資本過剰論</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績の評価は学期末に行う試験結果による。出席率は一切考慮しない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考書は授業時間中に適宜お知らせします</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義概要の趣旨から分かるように、教科書は使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論Ⅱ		秋学期集中	4単位	伊代田 光彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>次の2つの問題に焦点をあてて講義を進める。</p> <p>近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の3つの側面から総合的に明らかにする。</p> <p>1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。</p> <p>必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は2回生以上が望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I 所得分配(理論、実態および政策)</p> <p>1 はじめに 4 人的分配の分析概念(2回)</p> <p>2 所得分配の基礎理論(3回) 5 所得・資産分配の実態(3回)</p> <p>3 所得分配率 6 分配に関する政策の現状と問題点</p> <p>II マクロ経済学の潮流</p> <p>1 ケインズ経済学(4回) 国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策</p> <p>2 反ケインズ派経済学(4回) フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学</p> <p>3 新ケインズ派理論</p> <p>4 新古典派リアル・ビジネスサイクル理論</p> <p>5 おわりに(マクロ経済学の展望)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊代田光彦著(第13章稲別正晴著)『マクロ経済学』(『新版現代経済学の基礎(全訂)』抜刷、法律文化社、2001年) 下記を所有しておれば上記の購入は不要 稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝(共著)『新版現代経済学の基礎(全訂)』(法律文化社、1998年、品切れ)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済成長論		秋学期集中	4単位	西川 憲二
<p>[講義概要・学習目標] 欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。今日では、各国が世界的な経済競争にさらされるようになった。この講義では、西欧の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展を検討する。そして、経済学がこれらの経済発展をどのようにとらえているかを、経済成長理論をもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力である技術革新の重要性を論じる。</p>	<p>[講義計画] 経済成長とは 近代西欧とアメリカの経済発展 経済成長理論 日本の高度成長と現状</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席、レポート、年度末試験。</p>	<p>[参考文献] なし。</p>			
<p>[教科書] なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
景気循環論		秋学期集中	4単位	滝田 和夫
<p>[講義概要・学習目標] 約10年間に及ぶアメリカの長期繁栄が終わり、「世界同時不況」の暗雲が垂れこめる現在、日本経済は出口の見えない厳しい不況に見舞われている。いつまでも減らない銀行の不良債権、この数年のマイナスの名目成長率に見られる深刻なデフレ経済、流通・建設・金融業界を中心とする大手企業の経営破綻、そして相次ぐ工場閉鎖とリストラの嵐・・・。 学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。そこでは、リアル・ビジネス・サイクルなど最近の景気循環論についてもできる限り言及するつもりであるが、力点はあくまでも基礎的な景気循環論の把握に置き、具体的にはヒックスの景気循環論の十分な理解あたりを目標としたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、経済原論ⅠA-2を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。</p>	<p>[講義計画] 1. 景気循環とは何か 2. 景気循環論の基礎 3. 乗数・加速度モデル 4. 不規則衝撃の理論 5. 非線型景気循環論 6. 均衡景気循環論</p>			
<p>[成績評価の方法] 試験の成績による。</p>	<p>[参考文献] J. R. ヒックス (著) 古谷弘 (訳) 『景気循環論』 (岩波書店) M. カレツキ (著) 宮崎義一・伊藤光晴 (訳) 『経済変動の理論』 (新評論)</p>			
<p>[教科書] 浅利一郎著『IT時代のマクロ経済学』 (実教出版社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計量経済学		春学期集中	4単位	荒木英一
[講義概要・学習目標] 経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといたえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。この講義では、(受講者数にもよりますが) コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもともと汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。	[講義計画] 1. 記述統計のいろいろ 2. 最小二乗法、決定係数 3. 統計的推定と検定の考え方 4. 回帰分析 詳細については、2001年度講義のホームページ http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu01.html を参照のこと。			
[成績評価の方法] 何回かの小テストと学年末試験による。	[参考文献] 適宜に指定する。			
[教科書] プリントと教材ファイルを配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国民経済計算論		秋学期集中	4単位	桂 昭政
[講義概要・学習目標] 国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、経済の動き、特に日本経済の動きを理解するうえで不可欠と言える。本講義では、国民経済計算の基礎知識について学習するが、2000年末からわが国の国民経済計算データが1993年に改訂されたSNAに(すべてではないが)準拠するかたちで公表されることになったことを踏まえて、93SNAの構造と特徴についても言及する。それとともにわが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも併せて行っていきたいと考えている。なお、理解を深めるために可能な限りデータのパソコン処理の実習を行っていききたいと思っている。	[講義計画] 1. SNAと日本の経済循環—生産、所得分配、蓄積の側面を中心に— 2. SNAと日本の経済循環—ストック(資産)の側面を中心に—			
[成績評価の方法] 学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テスト行い出席状況を加味して判定する。	[参考文献] 中村洋一『SNA統計入門』(日本経済新聞社) 浜田浩児『93SNAの基礎』(東洋経済新報社) 桂 昭政『福祉の国民経済計算—方法とシステム—』(法律文化社)			
[教科書] 武野秀樹『国民経済計算入門』(有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 済 政 策		秋学期集中	4 単位	津 田 直 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係が制度や秩序のレベルで議論される場合には、問題は経済体制論にまで広がる。数量的な経済変数のレベルで議論される場合には、経済政策論はマクロやミクロの経済理論と関係してくる。最初は経済政策論の思想や一般論を扱い、授業の後半は経済政策論の各論や日本経済における具体的問題を扱う。</p> <p>他の科目との関係について。経済理論の知識が必要となるので経済原論ⅠAを履修していることが望ましい。</p> <p>毎回、講義内容を要約した資料を配付する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済政策論の対象と課題 2. 経済政策思想 3. 市場、国家、中間組織 4. 経済政策の目標と手段 5. 市場機構と経済政策 6. マクロ経済理論 7. マクロ経済理論と財政・金融政策 8. 財政政策 9. 金融政策 10. 90年代日本経済をめぐるケインズ派と新古典派 11. 不良債権と日本経済 12. 規制緩和と経済政策 13. 社会保障と経済政策 14. イノベーションと経済政策 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テストによる評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の中でそのつど知らせる</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財 政 学	0 1 0 2	春学期集中 秋学期集中	4 単位 4 単位	竹 原 憲 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>いま日本の財政が目ざされている。 OECD諸国のなかでも日本の財政赤字は最悪の状態にある。2001年度末の国・地方の長期債務残高は666兆円、GDPの130.5%にもなっており、借金の返済は不可能だろうともいわれている。そうすると小泉「構造改革」の行方もあやしくなってくる。 その一方で、福祉や年金、雇用・景気対策など財政の多様な機能が求められている。これによって、日本の財政は我々の日常生活や民間の経済活動にいつそう深い関わりもつものになっている。それだけに財政危機は厄介な問題である。 もっとも、こうした日本の財政が、単なる関心の対象に終わってしまうならば、その正体は分からない。財政のしくみや経済活動との関係について、体系だった取り組みが必要になる。 この点をふまえて、講義では2002年度予算を手がかりにしながら、日本財政の内容、直面する問題、国民生活への影響、そののぞましい姿などに迫ってみたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本財政の現状—2002年度予算分析 ここで抽出された主要課題を以下の内容にそって検討する。 2. 財政と財政論 3. 予算制度 4. 政府活動と経費構造 5. 租税と租税制度 6. 公債の理論と公債制度 7. 財政投融资のしくみ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート及び定期試験で総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>和田 八東『財政学要論〔三訂版〕』文真堂、2000年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は使用しない。 適宜資料を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
金 融 論		春学期集中	4単位	木村二郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「金融大再編」「ゼロ金利政策」「ペイオフ解禁」「不良債権問題」などという言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。</p> <p>「貨幣」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのような制度再編の波にもまれているのかを明確にしていく。そして、私たち生活する者にとって、この金融制度再編や金融政策の持つ意味は何かを解明する予定である。</p> <p>学習の目標としては、金融の基本的な理論と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>テキストに沿って、「金融とは何か」「貨幣制度の変遷」「企業金融」「市中銀行」「中央銀行」「金融仲介機関とその他金融機関」「金融市場と金利」「外国為替市場と国際金融市場」「国際決済システムと円」「金融の自由化と国際化」の順に講義を進める。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>小テストと学期末試験の総合評価。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>小塩隆士著『新・日銀ウォッチング』日本経済新聞社、2000年 高田太久吉著『金融グローバル化を読み解く：10のポイント』新日本出版、2000年 日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2000年</p>		
<p>[教科書]</p> <p>関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済数学		秋学期集中	4単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。</p> <p>しかし、ベストセラーとなった「分数のできない大学生」の共著者の一人である西村教授が経済学者であることを例に取るまでもなく、数学は経済学と無縁の学問ではありません。むしろ基本的な見方を提供してくれる道具です。</p> <p>本講では経済学への応用を視野に入れながら、右記の項目について説明した後、問題演習を行ないます。実際に手を動かして問題に取り組むことが必須の条件となります。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの応用 ・導関数と微分 ・行列とベクトル ・線形計画法 ・積分 ・微分方程式と差分方程式 <p>進行状況によっては他の事項も扱う。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>入門・経済数学(上)(下)、E.ドゥリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版 大道を行く高校数学 代数・幾何編、橋謙他著、現代数学社 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社 経済学のための数学入門、神谷他著、東京大学出版会</p>		
<p>[教科書]</p> <p>グラフを描く実習を交えますから講義にはグラフ用紙を必ず持参して下さい。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済統計		春学期集中	4単位	桂 昭政
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別のミクロ統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 国民所得統計の特質と利用 2. 産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社） 木下・土居・森編『統計ガイドブック 社会・経済（第2版）』（大月書店）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岩井・泉・良永（編著）『情報化社会の統計学（改訂版）』（ミネルヴァ書房）</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学特講（インターンシップ）		集中コース	2単位	木村 二郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験をするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。 なお、当科目については、4月に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修登録ができないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>プログラムの概要</p> <p>(1) 事前研修 ①プログラムのガイダンス ②研修企業・団体等の事前学習 ③ビジネスマナーの指導 ④研修要領の説明と報告書の作成指導</p> <p>(2) 研修期間 夏期休暇中（60時間以上、2週間の予定）</p> <p>(3) 事後研修 研修結果の報告</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				